

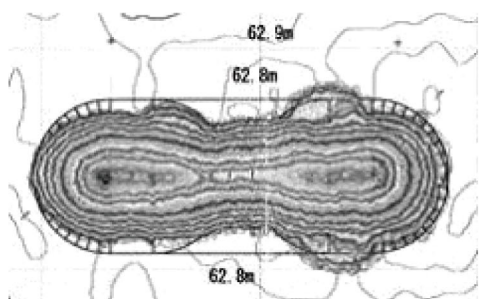
超音波発信器を用いたイサキの行動解析

(一財) 漁港漁場漁村総合研究所 第2調査研究部長 伊藤 靖

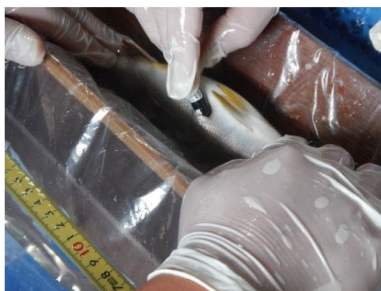
西日本の人工魚礁に集まる魚類の中で、特に集まる量が多く漁獲される魚としてマアジを「海の寺子屋第10時限目」で紹介しましたが、今回はマアジに続き魚礁に良く集まっているイサキについて知見が得られましたので紹介します。

イサキの産卵期は6～8月で、特に6～7月が盛期です。この梅雨時期は脂がのって刺身・塩焼き何でも美味しく食べられます。そんな話はさておいて、イサキがどのくらい魚礁性が強いのか、また、マアジは昼間には魚礁に集まり夜間は表層付近を遊泳する日周行動をしますが、イサキはどんな行動をするのかを確認するため、イサキに超音波発信器をつけてその行動を半年間追いかけてみました。

イサキの腹腔内（おなか）に発信器を入れ、鹿児島県阿久根沖の水深65mの海底に造成された高さ20m×幅200mの石材を用いた人工マウンドに設置型受信機を設置し、5月中旬に15個体を放流し、11月中旬に回収しました。



人工マウンド礁

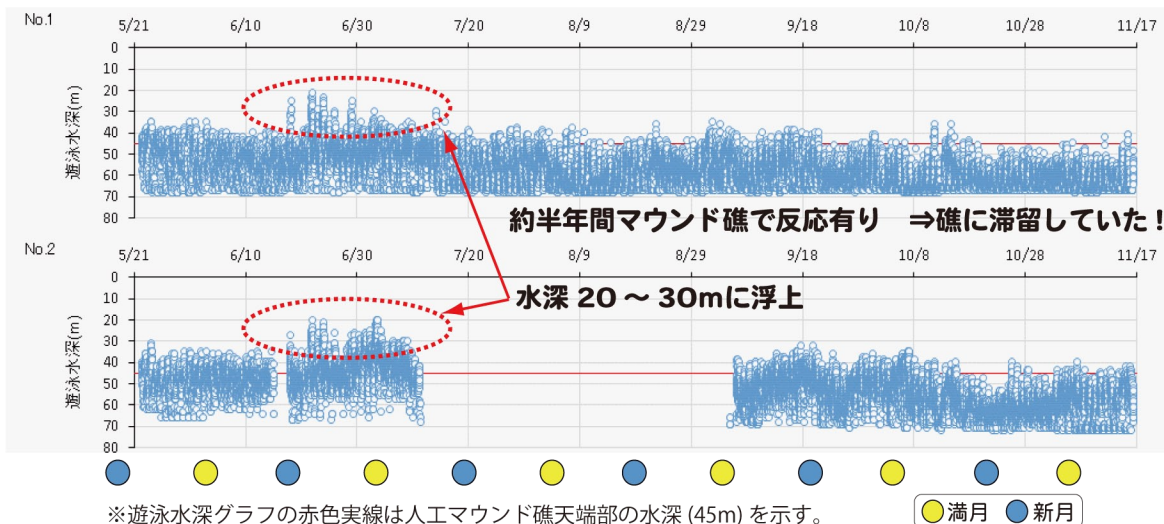


発信器の取付

マウンド礁に近づくとおなかの発信器の超音波を受信器が受信することで、集まっていたことがわかる仕組みだね♪



その結果、放流したイサキの半分はマウンド礁に調査期間の約半年間滞留しており、非常に魚礁性の強い魚種であることが分かりました。また、産卵時期の6月中旬では、魚礁に付いていた全ての個体が20時～3時の間、浅い水深帯に浮上する行動を取っていました。このことは過去の水槽実験で、夜間雄・雌のカップルが急浮上して産卵・放精する結果と合致しており、実海域におけるイサキの行動を知ることが出来ました。また、昼・夜の行動が新月時と満月時では大きく異なることが分かりましたが、なぜ異なるかについては今後課題です。



※遊泳水深グラフの赤色実線は人工マウンド礁天端部の水深(45m)を示す。

イサキの遊泳水深(放流個体の2例)